

◆令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果

4月15日(火)【理科・生徒質問紙調査】、17日(木)【国語・数学】に、3年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」についての結果がまとまりました。本調査は、**国語・数学・理科**の3教科のテストと同時に、**家庭での過ごし方や学習時間**を問う調査も実施されており、生活習慣や学力の実態等について状況をお伝えします。

総合結果（国語・数学・理科）

今年度実施されました国語・数学・理科の平均正答数の結果から、**理科**では概ね**全国平均・京都府平均**並みでしたが、**国語・数学**は**全国・京都府平均**を若干下回る結果となりました。ただし、国語・数学の平均正答数は平均値より下回っているものの、その差は**昨年度以上**に縮まる結果でした。

併せて、無解答率では、**国語・数学・理科**全てにおいて、**昨年以上に大きく改善**していました。学習確認プログラムも同様ですが、生徒が問題に向き合い、**最後まで諦めずに取り組もうとする姿勢**は着実に育まれているようです。

国語科より

※各教科による分析・今後の改善等についての報告です。

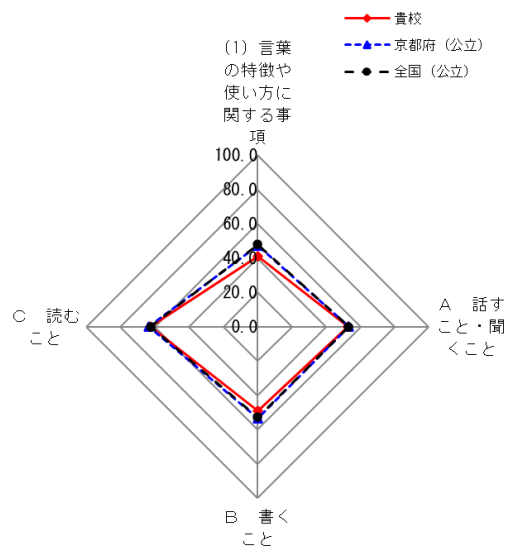
全体を通して、全国並びに京都府のポイントから**若干下回る結果**となっていますが、問題別に見ると全国並びに京都府の正答率より高い問題が複数ありました。観点別・問題形式の正答率の高低は全国・京都府の流れに準拠するものの、「**言葉の特徴や使いに関する事項**」や「**B 書くこと**」に関する問題の正答率が低く、**知識及び技能の定着と記述力**の部分で大きな課題が見られました。

また、無回答率の高低は全国・京都府の流れに準拠するものの、**選択式の問題に関しては無回答率がおおむね0%**であり、生徒の最後まであきらめずに取り組もうとする姿勢が見られました。

【まとめ】

- ① 全体を通して全国・京都府のポイントを若干下回る結果となりました。
- ② 観点別に見ると、「言葉の特徴や使いに関する事項(知識及び技能)」や「B 書くこと(思考力、判断力、表現力等)」の領域に大きな課題がありました。
- ③ 無回答率の低さから、問題に答えようとする意識が見受けられました。

以上から、**基本的な知識及び技能の定着**や、設問の内容に沿って**自分の考えを適切な表現で解答する能力**の育成が急がれます。基本的な知識及び技能である漢字や語句の意味などに関しては、定期的な漢字の小テストの実施や、教科書教材を読む事前の意味調べ等により定着を図っていきます。記述力に関しては、学習確認プログラム等の機会を用いて、制限時間内に文章を読み、適切に解答する能力の育成を進めていきたいと考えています。適切に設問に解答するためには、設問内容を正しく捉えることが必要になるため、授業内では**設問に答える流れや考え方、解答の際の表現等**を丁寧に指導していきたいと考えています。また、教員が生徒の書いた意見を添削する前に生徒どうしで添削し合う時間を授業内に設け、**読み手側に立って文章を書く力**を育んでいこうと思います。読解力と記述力を連結させ、より強い根拠を持った意見が展開できる能力の育成を進めていきたいと思います。



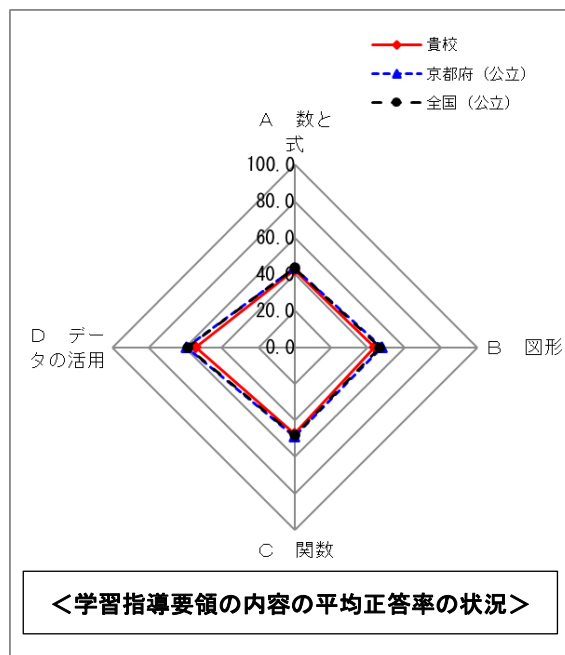
＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞

数学科より

全国並びに京都府と比べ、平均正答率は若干下回る結果となっています。領域別では、数と式と関数領域はほぼ同等、図形とデータの活用領域は少し低い結果となりました。観点別では、知識及び技能はほぼ同等、ただし思考・判断・表現はかなり低い結果でした。問題形式では、選択式は上回り、記述式・短答式は平均より低い結果となりました。問題別の結果から短答式の計算問題や知識を表現する力は定着している生徒が多いようでした。しかし、その知識・理解を活用する問題になると、言語化、文章表記のできない生徒が多いという課題がみられました。ただし、各問題の無回答率と正答率より正答率が低い問題であっても、解答しようとする意欲が見られ、困難な課題に対しても、向き合おうとする学習者の姿勢を今後も応援したいと考えています。

【まとめ】

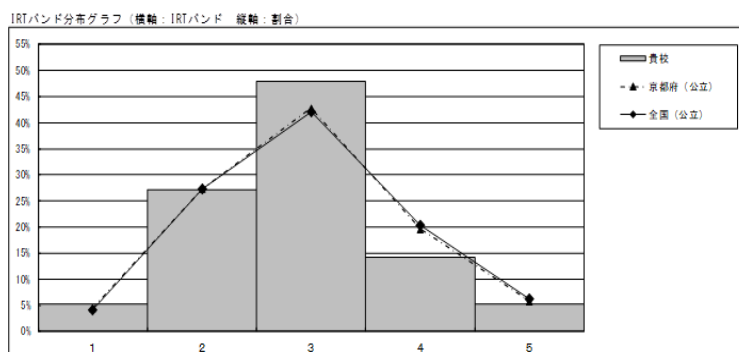
- ① 思考・判断・表現の記述式の問題に課題が見られました。問題を解決する場面で、なぜそのような解答になるのか、考え、相手に伝える場面の設定を意図的に設定した指導を進めていきたいです。
- ② 授業内でできた基本的な内容も短期的には対応できても長期的な定着に課題が見られました。個別最適な家庭学習と学習内容の定着を目的とした小テストや学習会、定期テストを授業と連動させて理解を深め、できることを増やしていきたいです。そして、2年間の学習を振り返りながら基本的な学習内容を定着させるためにも、粘り強く考える力と問題を解決して数学に対して達成感が持てるよう、継続した指導を進めたいと考えています。



理科より

本校の平均正答率は、全国並びに京都府の平均とほぼ同じ水準でした。ただし、より詳しい分析 (IRT スコア) では、本校は 491 点で、京都府平均 (500 点) や全国平均 (503 点) よりやや低い結果となりました。

また、学力層の分布を見ると、標準的な学力層 (中間層) の生徒が多く、上位層の割合が少ない傾向が見られました。これは、基礎的な力は身につけているものの、より高度な内容への対応力を伸ばしていく必要があることを示しています。



【公開問題別調査結果より】

今回の調査では、すべての問題において「無解答率」が全国・京都府平均より低く、多くの生徒が最後まで諦めずに取り組んでいたことが分かりました。これは、学習への前向きな姿勢が育まれている証です。

また、難しい問題 (難易度 5) では平均より高い正答率を示しましたが、やや難しい問題 (難易度 4) では平均を下回る結果でした。さらに、記述式の問題 (思考・判断・表現) には強さが見られた一方で、選択式や短答式の問題 (知識・技能) には課題が残りました。

分野別では、化学や生物分野の正答率が平均より低く、これらの領域の理解を深める必要があります。

【生徒質問紙から】

生徒質問紙の結果からは、理科の学びが「将来社会に出たときに役立つ」と感じている生徒が多く (65.3%)、全国・京都府の平均を上回りました。また、「自分の予想 (仮説) をもとに観察や実験の計画を立てている」と答えた生徒も多

く、探究的な学びへの意欲が育まれていることが分かります。

【今後に向けて】

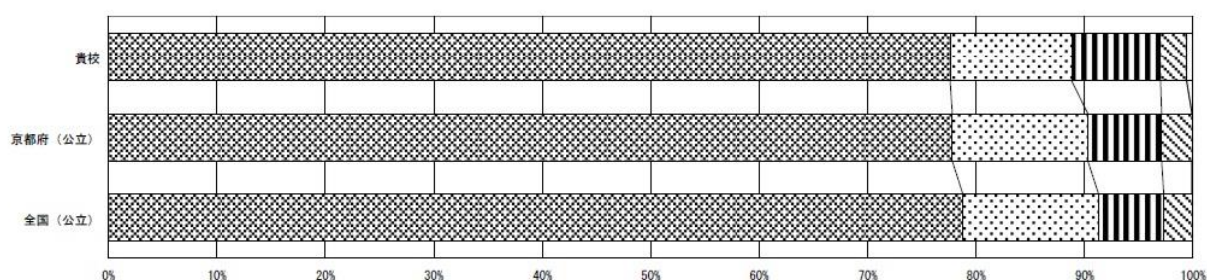
今後は、生物や地層など身近な自然に関する知識・技能の定着を目指し、校内でのフィールドワークや動物の飼育体験など、生活に根ざした学びを充実させていきます。また、京都市の学習確認プログラムなどを活用し、復習の機会を増やすことで、学力の向上を図ってまいります。

生徒質問紙調査（生活面）から

※各担当による分析・今後の改善等についての報告です。

■設問1「朝食を食べていますか。」

□1. している □2. どちらかといえば、している □3. あまりしていない □4. 全くしていない □その他 □無回答

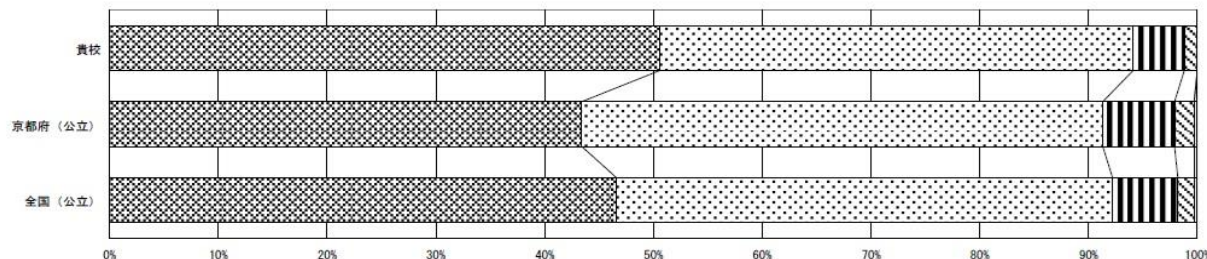


令和6年では、1と2（1. 食べている 2. どちらかといえば食べている）の割合が、全国 91.2%に対し、本校は 85.2%と低い数値が見られました。全く食べていないといった生徒に関しては、全国 2. 8%に比べ 5. 9%と高い値が示されました。

令和7年は、1と2の割合が、全国が 91.2%に対し、本校では 88.8%と前年度よりも高い数値を示していました。その理由として、今年度は、委員会・教科係が中心となり、朝食に関する新聞を作成したり、校内でアンケート調査をする等、「食育」に関して積極的に啓発活動に取り組んできたことが成果として表れてきたと捉えています。今後も継続した「食育」の啓発と推進に取り組んでいくことにより、3の割合の生徒を1・2に引き上げる事が期待されていきます。

■設問6「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □その他 □無回答



設問6では、1・2の割合が 94.1%と非常に高い数値が見られます。また、設問10でも1・2の割合が全国では 73.2%に対し、76.5%と全国平均よりも高い数値が示されています。この結果より、「本校の生徒と教員の良好な関係が築けている」ことが見て取れます。教員との教育相談や、個別の関わりの中で、「生徒とコミュニケーションが構築してきた結果」が表れたのではないかと考えています。一方で、当てはまらないと答えている生徒も一定数在籍しています。今後、多くの生徒が安心して相談できるような風土、関係を継続して構築することが求められます。

■設問 10「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」

□1. 当てはまる

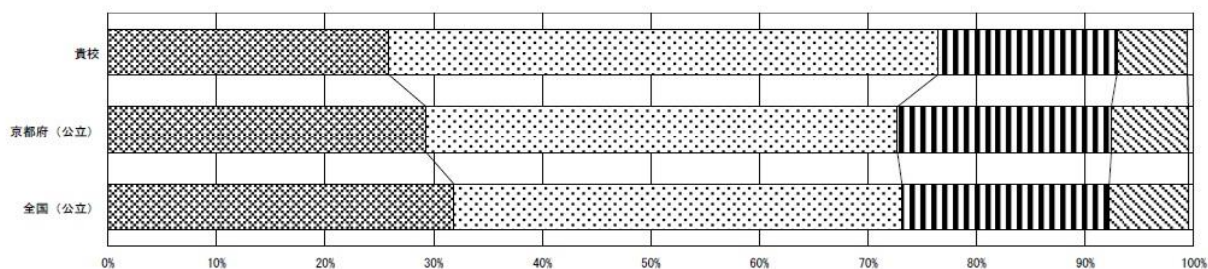
□2. どちらかといえば、当てはまる

□3. どちらかといえば、当てはまらない

□4. 当てはまらない

□その他

□無回答



生徒質問紙調査（学習面）から

■「1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」

□1. 当てはまる

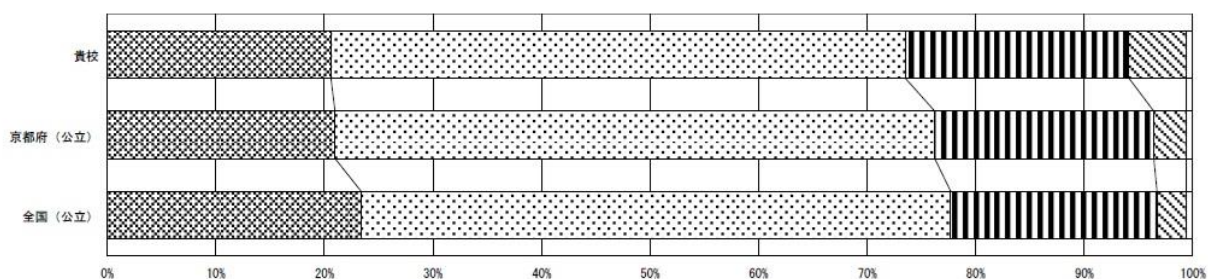
□2. どちらかといえば、当てはまる

□3. どちらかといえば、当てはまらない

□4. 当てはまらない

□その他

□無回答



1. 当てはまると回答した生徒の割合が 20.6%と京都府並びに全国平均より少し低い結果となりました。昨年度の同じ質問の回答率と比較すると、10%程度の減少が見られました。その一方で、1.当てはまると2.どちらかといえば、当てはまると回答した生徒の割合は 73%で昨年度と同様の結果でした。京都府・全国平均と比較すると昨年度と同様に少し低い結果となっています。肯定的な回答が 70%を超えていることから授業に対して、一定数の生徒が主体的に課題解決に向かって取り組むことができている現状から、更に授業の中で生徒が主体的に課題解決に向かえるような取組を工夫する必要があるという結果となりました。ICT 機器を上手く活用し、個別最適な学びに主眼を置き、生徒が主体的に学習に向かうような学習課題の設定や学習内容の工夫が必要である共に、生徒の内発的動機付けにつながる場面設定を教科学習だけに求めず、学校教育活動全体を通して取り組む機会を意図的に創っていきたいと考えます。

保護者の皆様へ

全国調査は、生徒たちの学習状況の実態を知り、生徒個々の可能性を更に伸ばすための課題を見つけ解決していくためのものです。従って、結果が「学力」の全てを表しているのではなく、また順位を競うものでもありません。「学力」は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となり得ます。今回の結果だけで判断することは困難ですが、引き続き、学校が取組むべき課題、各ご家庭でのお子達に対する関わりや指導・支援をお願いする課題、そして、学校と家庭、地域が三位一体となり取組むべき課題の解決に向け学校教育を進めていくと共に、健やかな育ちと学びの環境づくりに対しましてご理解、ご協力、ご支援をお願いいたします。